

小学生の部親子賞 最優秀賞



**じいちゃん、  
ばあちゃんと新聞**

会津若松市会津若松  
ザベリオ学園小3年  
大関 幸さん

学校から帰って来て、くしゃくしゃになった新聞を見ると、「今日もじいちゃん、ばあちゃんは元気だった」とわかります。新聞にたくさんのおりがついているばあちゃん、じいちゃん、何度も新聞を読んだんだらうなとわかります。料理のしょうかいや、はい句のページが切りとられていけば、ばあちゃん、今日もはい句を考え

ていたんだらうなとわかるからです。だから私は新聞がくしゃくしゃになっていると安心します。そして、じいちゃんに、今日一番びっくりした記事を聞いたり、ばあちゃんにどんな面白い話を作ったのかを聞いたりして、たくさん話をします。くしゃくしゃの新聞も笑っているように見えます。新聞は読むだけでなく、じいちゃん、ばあちゃんとの会話もふやしてくれます。

でも、新聞におりがついている日は、じいちゃん、ばあちゃんは、今日は具合がわるかったのかなあと、とても心配になります。そういう日は決まって、じいちゃん、ばあちゃん、病院に行っているからです。私は何だかなくなっていて、さびしい気持ちになってしまいます。新聞もむ表情に見えます。

こんなふうに、私にとっての新聞は、たくさんニュースや知しきを教えてくれるだけでなく、じいちゃん、ばあちゃん、何事もなく一日を過ごすことができたかを知ることができたり、毎日、新聞をくしゃくしゃにして、じいちゃん、ばあちゃんと新聞がすすむじいちゃん、ばあちゃんに新聞を読んであげて、いろいろな教えてあげて、いろいろな教える。

**父と新聞**

母 大関 美華さん

「今日も新聞がくしゃくしゃでよかったね」。娘の「くしゃくしゃ」という一言に、私自身が小学生だった遠い昔、父と新聞との毎朝の定番シーンの朝起きると父はすでに茶の間で新聞を読んでくしゃくしゃに読んでいた。一ページをじっくり読むと、父の健康や無事を垣間見て「このシーンがこれからも続けばいい」と願ったその姿は、遠い幼い頃の私自身の姿と重なる。

実家に帰ると決まると、朝は新聞を読んで父。四十年以上変わらない朝を今もなお迎えることができて嬉しさと幸せを感じる。そして、ずっとこの毎朝の定番シーンが続きますようにと父と新聞を見つめながら願うばかりである。

世代を超えて家族をつなぎ、家族を大切に思う優しさ、当たり前の毎日がどれほど幸せかと教えてくれた新聞。父と私、祖父母と娘をつなぎ絆を深めてくれた新聞。今後、私も私たちの心の中にたくさんのおもいでを残して、父と新聞を見つめながら願うばかりである。